

ベートーヴェン生誕250年に沸き立つ2020年記念の年だからこそ、この王道プログラムは絶対に外せないだろう。

しかも実に26年にわたる絆を持つ指揮者・飯森範親と東京交響楽団との演奏で聴くことができるのは、非常に意義深い。飯森がこれまでに国内外のオーケストラを数えきれないほどの公演で指揮し、今や日本を代表する指揮者のひとりとなったことは周知の通りだが、それも1994年に東京交響楽団の専属指揮者へ若くして就任して以降、今日に至るまで常に東京交響楽団でのポストを持ち楽団と切磋琢磨してきたからこそのものである。彼らはまさに戦友同士であり、だからこそその成熟したアンサンブルを実現できる間柄だ。

この4月からは特別客演指揮者という新たな役職へ就任する飯森、そして同楽団が、楽聖のメモリアル・イヤーに、「田園」&「運命」という誰もが知る超名曲を引っ提げて登場する…まさに満を持しての公演であり、彼らの“今”が聴ける公演ともいえるだろう。ベートーヴェン・イヤーのハイライトとなり得るこの公演に、大いに期待したい。

これぞ、王道。
音楽史に毅然とそびえ立つ
究極の2大交響曲



BEETHOVEN 250th ANNIVERSARY of BIRTH

飯森範親 (指揮) Norichika Iimori (Conductor)

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。03年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞。海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコフィル、ブラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴュルテンベルクフィルの音楽総監督(GMD)に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。

現在、山形交響楽団音楽監督(07年から)、東京交響楽団正指揮者(2020年4月から特別客演指揮者)、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴュルテンベルクフィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者、2019年シーズンより山形交響楽団芸術総監督に就任。2020年1月より東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、同年4月より中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者に就任。

オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>

東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra (Orchestra)

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市、八王子市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ58都市78公演を行う。さらに「VRオーケストラ」や「LINEチケット」の導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス『TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION』をスタートするなどITへの取組みも業界をリードしている。音楽監督にジョナサン・ノット、正指揮者に飯森範親(2020年4月から特別客演指揮者)、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

公式サイト:<http://tokyosymphony.jp/>

木のホール 神奈川県立音楽堂

JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩約10分・紅葉坂



〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

Tel.045-263-2567

<http://www.kanagawa-ongakudo.com/>

- JR・市営地下鉄「桜木町」駅 (南改札西口、北改札西口) から徒歩10分
- 京浜急行「日ノ出町」駅から徒歩13分
- みなとみらい線「みなとみらい」駅から徒歩20分